



令和5年度 第22号  
令和5年8月30日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

## 2学期のスタート① 始業式ではいろいろな「能力」のお話をしました。



ついに2学期がスタートしました。夏休み中は、各ご家庭で子どもたちの学習や生活を見守ってください、誠にありがとうございました。今朝も、子どもたちは元気よく登校していました。昨日はPTA一斉あいさつ運動の日でもあり、正門、南門の方には、PTA役員さん、地域の自治会長さん、民生委員さん、防犯協会、交通安全協会の方など多くの地域の方々に集まっていただきました。みなさん、本荘校区の子どもたちのことを宝物のように思ってくださいませ。地域の温かい目に見守っていただきながらの2学期のスタートでした。

早速、始業式です。体育館の中は少々暑かったのですが、子どもたちは、大変よい姿勢で式に参加していました。さすが本荘の子どもたちです。

校長先生のお話では、「能力」についてのお話をしました。「能力」と聞くと、「何かができる」力と考える方が多いでしょう。まさにその通りですね。ですので、「能力」はある方がよいということになります。当然、「能力がない」ということがマイナスにとらえられます。「自分には能力がないのだ」と落ち込んだ経験がある人は少なくないでしょうね。私もその一人です。今は、60年近くも生きてきましたので、能力のあるなしで、落ち込んだりすることは、ほとんどなくなりましたが、子どもたちはどうでしょう。「できる」「できない」で悩んでいる子どもは多いと思います。

詳しくはいつものように、裏面の原稿を読んでいただければと思いますが、あらすじを紹介すると二人の若い会社員「太郎さん」と「一郎さん」は社長さんから「売れ残って何年も倉庫に積んであった時代遅れの洋服を売る方法を考えてほしい」と言われました。なかなか難しいプロジェクトです。太郎さんは、もともと大学の成績もよく優秀な社員と評判の若者です。すぐに自分で情報を集め、分析し、自分の考えをまとめて提案しました。「能力」の高さで問題を解決しようと思いました。一郎さんは、学生の頃から勉強が苦手で、いつも誰かに助けてもらいながら就職することができた人です。それなのに社長さんからの難問で、泣きそうになりました。でも、いつものようにいろいろな人を頼って、何とか知人、友人の力で提案をしたのです。

結果は、なんと二人とも一等賞だったのです。社長さんは、二人の仕事ぶりについてこう言いました。「二人の考えは同じくらい素晴らしい。太郎さんは、自分で情報を集め、自分の考えをまとめることが得意なのです。すばらしい能力です。一郎さんは、自分で考えることは苦手かもしれないけれど、多くの人に教えてもらいながら情報を集めることができる人なのです。これもまた能力なのです。人にはいろいろな能力があるものですが、それをたし算していく総合力というのが大事なのです。太郎さんも一郎さんも私にとってとっても大事な社員なのです。さすがですね。」なんとすてきな社長さんですね。

(裏面に続きます)

「能力」というものはできることだけがすべてではないということです。助けてもらうことも「能力」ならば、才能が高くなるとも、人を大切にすることができる人はきっと、いろいろな場面で助けてもらえるはず。子どもたちには、ぜひ伝えたいところです。

2学期は、いろいろなイベントや運動会などのプロジェクトがあって、大変な学期ですが、みんなでお互いに助け合うことができれば、楽しく取り組んでいけるはず。

学期の始めだからこそのお話でした。みなさん、期待していますよ。(校長)

## 校長先生の虫眼鏡 「始業式のお話」

みなさん、おはようございます。元気で2学期が迎えられて本当に嬉しいです。楽しい夏休みを過ごすことはできましたか。終業式の日に、校長先生は三つの目標を言いました。

その1 早寝、早起き、ランニング。早起きは4時30分

→これはよくできました。毎日、4時半起きです。犬くんの方が眠そうでした。

その2 掃除、洗濯、犬の世話。お皿洗いもします。

→庭掃除、水やり、完璧でした。犬くんも満足でした。

その3 読書、お仕事、趣味・遊び。読書は20冊!

→お仕事頑張りました!!夏休みの間にも学校だよりを出しました。ゴルフにも行きました。ダイビングもしました。本は、18冊読みました。

9月までにはあと2冊読むつもりです。

なかなか難しい目標だったのですが、校長先生は、なぜ目標を達成できたのでしょうか?校長先生の才能なのでしょう?どうでしょう。

みなさんにも得意なことがありますよね。ピアノが得意な人、サッカーが得意な人、テニスが得意な人もいますよね。勉強が得意という人もいますよね。そんな力のことを「能力」と言ったりします。

この能力というものは他の人よりも上手にできることと思われがちですが、上手にできること=能力なのでしょう。できないことも能力ってことないですかね。

例えば、赤ちゃん👶。赤ちゃんは何も上手にできませんよ。何をさせても君たちの方ができるに決まっています。でも、赤ちゃんはまわりの人たちから、かわいがられ、大切にされます。できないから大切にされています。ということは、できることは「能力」ですが、それだけではないということです。こんなお話があります。

あるところに、同じ会社に入社した2人の若者がいました。太郎君と一郎君です。

太郎君は大学をとて優秀な成績で卒業して、その会社に入りました。一郎君は大学での成績はそんなによい方ではありませんでした。どちらかというと勉強は苦手な、友だちに教えてもらって何とか試験に合格できるという感じてした。

あるとき、会社の社長さんが、「売れ残って何年も倉庫に積んであった時代遅れの洋服を売る方法を考えてほしい」と言い出しました。校長先生はね、お客さんが自分で値段を決めてよい!というやり方にしたらどうかと考えました。自分で値段を決めてよいのなら、みんな喜んで買うのではないですか。どうかね。

では、二人の若者はどうしたでしょう。

まず、太郎さん。太郎さんはすぐに本屋さんに行って、お洋服に関係する本を買いました。そして、本の中からアイデアを見つけて、インターネットで色々なデータを調べて、自分の考えをまとめました。

一郎さんはどうしたでしょう。一郎さんはどうしてよいのか全くわかりませんでした。あまりにわからないので泣きそうになったくらいでした。仕方がないので、学生の時のように、お友だちや先生、先輩方に電話をかけて回りました。小学校の時の友達や遠い親戚にも電話をして、教えてもらいました。そして、いろいろな人からの知恵を借りてお洋服を売る方法を考えたのです。

さて、社長さんはいろいろな社員の人の話を聞いて、太郎さんの考えを一等賞としました。さすが太郎さんです。でも、もう一人、一等賞を発表しました。それには、みんなが驚いたのですが、もう一人は勉強が苦手な一郎さんだったのです。まわりの人たちは、驚くやら、くやしいやらです。頭がいいとみんなが思っている太郎さんなら納得なのに、自分たちより下だと思込んでいた一郎さんのことは認めたくなかったでしょうね。

でも、社長さんは、きっぱりと言いました。「二人の考えは同じくらい素晴らしい。太郎さんは、自分で情報を集め、自分の考えをまとめることが得意なのです。素晴らしい能力です。一郎さんは、自分で考えることは苦手かもしれないけれど、多くの人に教えてもらいながら情報を集めることができる人なのです。これもまた能力なのです。人にはいろいろな能力があるものですが、それをたし算していく総合力というのが大事なのです。太郎さんも一郎さんも私にとってとても大事な社員なのです。さすがですね。」と話されました。それを聞いていた人たちは、一郎さんのことをバカにしていた自分に気づいてはくしくりました。

自分でできることだけが能力ではないのですね。人に聞いたり、頼ったりしてやり遂げることも、立派な能力なのです。2学期の始業式に校長先生がなぜこのお話をしたのかわかりますか?

2学期は、6年生の修学旅行や大運動会、見学旅行など、いろいろな行事が目白押しです。だからこそ、自分一人の力では限界があるので、自分でできるかどうかということばかりにこだわらなくて、教えてもらったり、手伝ってもらったりして、何かをやり遂げる、ゴールすること、解決することが大事なのです。そういった意味では、頼りになる友だちがたくさんいるということも能力なのでしょうね。

2学期は、お互いに助け合うことが大切になってきますね。みんなでお互いに助け合って、2学期も思いやりの心で笑顔の本荘小にしていきたいと思います。これで校長先生のお話を終わります。